

大豆情報第4号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

8月1日～25日の気象は、平均気温29.2℃（平年比+1.9℃）、降水量0.5mm（平年比2%）、日照時間323時間（平年比187%）で推移しました。

高温乾燥状態で生育がやや抑制されていますが、7月6日頃に播種したほ場では、8月20日頃に開花しています。まだ開花をしていないほ場では、下記1. 雑草の除去の項目にも注意して栽培管理を行ってください。

また、排水良好のほ場においては、可能であれば、乾燥対策として開化期以降のうね間かん水を行いましょ。う（目安：無降雨が7～10日続いた場合）

※うね間かん水は中耕・培土を行い、気温が下がる夕方以降に実施してください。ほ場に水が行き渡ったら水を止め、ただちに落水してください。

1. 雑草の除去

ホソアオゲイトウ、アサガオ類などの難防除雑草は結実する前までにできるだけ早めに手取り除草を行いましょ。

イネ科雑草が多い場合はポルトフロアブルによる雑草防除を行ってください。ホソアオゲイトウ、アサガオ類は大豆の開花期になると、除草剤（大豆バサグラン液剤・アタックショット乳剤）を使えませんので手取り除草を行いましょ。

【イネ科雑草】

ポルトフロアブル（200～300ml/10aを水100ℓ、収穫30日前まで）

2. 病害虫の発生状況と防除

（1）紫斑病防除

紫斑病は多湿条件で多発します。紫斑病の防除適期は開花後3～5週目頃です。

（2）カメムシ防除

近年カメムシの発生が多いので、吸汁害による品質低下や青立ち株発生を防ぐため、防除を徹底しましょ。また広範囲に移動するため地域で一斉防除を行いましょ。

（3）ハスモンヨトウおよびミツモンキンウワバ

一部のほ場で発生がみられます。幼虫の多いほ場については白変葉の除去と併せ、薬剤防除（8月下旬以降）を行ってください。発生の少ない地区でも、防除適期に幼虫の発生状況に応じて防除を行いましょ。

一昨年発生の多かったミツモンキンウワバも発生が多いほ場はハスモンヨトウと同時防除を行いましょ。

（4）フタスジヒメハムシ

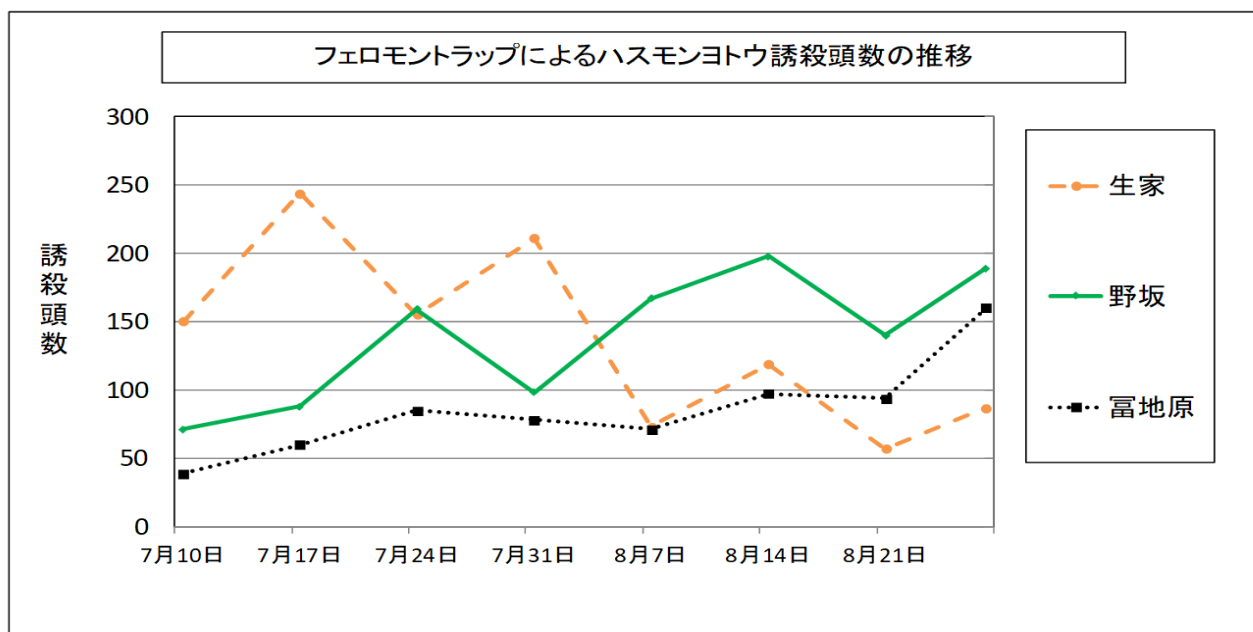
成虫が莖、葉、莢を食害します。特に、莢の食害には注意が必要です。多発していたら、子実肥大期（9～10月頃）に防除を行いましょ。



ミツモンキンウワバ(左が成虫、右が幼虫)



フタスジヒメハムシ



★主な病害虫の薬剤防除

防除時期	剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a 当たり)
8月末 ～ 9月上旬	粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫14日前まで	4kg
	液剤	プレオフロアブル (1,000～2,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100ℓ
9月中旬 ～ 9月下旬	粉剤	スミトップ M 粉剤	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ	開花期～若莢期 但し収穫21日前まで	3～ 4kg
	液剤	プレオフロアブル (1,000～2,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100ℓ
		スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫7日前まで	
液剤	トップジン M 水和剤 (1,000倍)	紫斑病	収穫14日前まで		
10月上旬	粉剤	スタークル粉剤 DL	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫7日前まで	3kg
	液剤	スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	収穫7日前まで	100ℓ

※スタークル剤は吸汁阻害効果と残効が長い。スタークル剤の使用は2回まで。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳